委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

8月豪雨による災害箇所調査

総務産業建設常任委員長　佐藤　徳治

町道佐賀山線災害調査（佐賀山地内）

8月の未曾有の豪雨は、8月1日から10日までの間における雨量は西峰地区で1,988㎜、大杉地区で1,706㎜、中でも3日の午前6時から7時の時間雨量は102㎜であった。

この豪雨による概算被害状況は、町道46件、被災額22億7,243万円、河川10件、被災額5,570万円、林道13件、被災額3億5,000万円、農道2件、被災額1億円、ため池1件、被災額2,000万円、農地5件、被災額1,500万円、崖9件、被災額9,000万円、総件数86件、総被災額29億313万円と過去に経験したことのない大規模な災害が発生している。

この他地滑りは22カ所を超えており、驚異的な豪雨であったことが伺える。この被災地の中でも大平の地滑り、町道浦ノ谷線、町道佐賀井上組線、町道東土居岩原線の被害は甚大である。

今後の災害復旧工事は、11月中旬から随時査定を受け、工事を発注する計画であるが、全てが復旧するには3年間を要する。しかし、現在の担当職員は2人で対応しており、関係機関等の協力を得ても災害復旧工事費は29億を超えることから増員をし、地域住民が安全で安心して暮らせるために早期に復旧・復興を望むものである。

編集後記

行政決定過程を透明化するために、議論の中味をお知らせする議会広報の役割が重要になっています。伝えたいことよりも聞きたいことを伝える努力をしてきた4年間であったと考えています。その一環として編集レイアウトを議案審議を先に変更したことにお気付きでしょうか。

政治・行政・議会用語の扱いについても苦慮しました。議会においては当たり前と思っていることが、実は特異な表現であった事例があります。

「○○議員が事故のため欠席」と、ゆとりすと放送で流れました。同時刻、救急車が走りドクターヘリが飛んだことも誤解を生むことにつながり、交通事故に遭ったかという問い合わせが相次ぎました。

聞きたいことを平易な表現に変えて伝えることを次期編集委員会への課題として申し送りたいと思います。

記　前野　由和

広報編集特別委員会

広報編集特別委員会
委員長　三谷幸一郎
副委員長　小川　智也
委員　前野　由和
委員　佐藤　徳治
委員　都築　正光

【ご意見やご感想は】
大豊町議会事務局
電話72―0450（代表）まで

平成25年度各種会計歳入歳出決算認定

（認定・全員）

平成25年度の一般会計、特別会計歳入歳出決算書、付属書類等及び基金の運用状況を示す書類等が、法令に準拠して処理されているか、予算執行が適正であるかどうかについて、関係諸帳簿等の照合を行うとともに、必要に応じて関係職員の説明を求める方法により審査した結果、いずれも正確で適正に処理されているものと認めたところである。

前年度に対して平成25年度の一般会計及び特別会計決算は、一般会計、国民健康保険特別会計は増額決算となったが、簡易水道事業特別会計、介護保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計については、減額決算となっている。しかし、国民健康保険特別会計においては、収支の均衡が得られず繰入金により対応している。超高齢化が進む中で、国民健康保険加入者の一人当たりの負担額は432,731円で、前年度408,898円と比べ23,833円、5.8%増となっており、依然として高い状況にあるため、今後とも医療費の軽減対策が課題となっている。

一般会計の歳入決算をみると、自主財源の根幹をなす町税は前年度と比べ町民税は1.3%微増し、一方固定資産税は1.6%減少している。全体として前年度に比べ442,346円、0.1%減、徴収率も0.1%減となっており、税の負担公平を原則とし収入未済額の縮減を図るため、より一層の努力を願うものである。

今後の経済情勢等の影響や景気の動向を踏まえると、本町を取り巻く歳入環境は今後とも依然として厳しく、特に歳入の根幹をなす町税収入においては年々減少傾向にあり、多くを見込むことは困難である。また、歳出面では少子高齢化の一層の進展、雇用情勢の悪化に伴う扶助費等の増加や安全・安心のための基盤整備等への対処など、多くの課題を抱えている。

このような中にあって、本町が将来に向けて持続的に発展していくためには、歳入に見合った支出に心がけ、健全で安定した行政運営を基本に、最小の経費で最大の効果を上げることに一層留意しなければならない。

財政分析等からみて総括すると、起債残高も年々減少に転じ、一人当たり887,978円となっており、町の貯金である財政調整基金も少しずつではあるが増え始めた。

町有財産の管理については、町民の共有財産であることを十分認識し、遊休財産の有効活用や処分についても検討されたい。

今後においては、地方債残高の推移等に十分留意され、引き続き歳出の効率化・重点化を図り、健全な財政運営に努められたい。また本町の要である「ゆとりすとカントリーおおとよ」の計画に基づき、町民のニーズの変化や時代の要請に的確に対応できるよう施策・事業を的確に推進し、町政のさらなる進展と町民福祉の向上増進に寄与されるよう一層のご尽力を望むものである。

決算審査報告（町長室）